

平成25年基金シート

(文部科学省)

基金名	子ども架け橋基金	担当部局	大臣官房国際課		作成責任者			
法人名	国際移住機関 (IOM)	担当課室	国際協力企画室		室長 永井 雅規			
根拠法令	-	関係する計画、通知等	「定住外国人の子どもの就学支援事業についての取り決め事項」(平成21年7月9日)(文部科学省と国際移住機関(IOM)との間の申し合わせ)		関係する行政事業レビューシート	-		
事業概要	(1) <input checked="" type="checkbox"/> 取り崩し型 <input type="checkbox"/> 回転型 <input type="checkbox"/> 保有型 <input type="checkbox"/> 運用型 <input type="checkbox"/> その他 (2) <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> 債務保証 <input type="checkbox"/> 利子助成、補給 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 補てん <input type="checkbox"/> 出資 <input type="checkbox"/> その他 本事業は、景気後退により、ブラジル人学校等や公立学校に通っていない、いわゆる不就学・自宅待機となっているブラジル人等の子どもに対して、日本語等の指導や学習習慣の確保を図るための教室を外国人集住都市等に設置し、公立学校等への円滑な転入を目指すものである。このため、その受け皿となる教室の設置、日本語指導、教科指導、バイリンガル指導員等(ブラジル人教員等も含む)によるポルトガル語等の母語指導を通じた教科指導補助等により、ブラジル人等の子供の公立学校等への円滑な転入や地域社会との交流の促進を図る。							
基金への国庫からの支出の経緯 ①	基金設置年度	平成21年度	当初/補正(会計区分)	補正(一般会計)	国費額(単位:百万円)	3,726		
	目的	景気後退により、不就学・自宅待機となっているブラジル人等の子供に対して、日本語等の指導や学習習慣の確保を図るための教室を外国人集住都市等に設置し、主に公立学校への円滑な転入を目指す。						
基金への国庫からの支出の経緯 ②	追加年度	-	当初/補正(会計区分)	-	国費額(単位:百万円)			
	目的	-						
終了予定時期	平成26年度に事業終了予定。なお、事業終了後に決算を行うため、基金は決算が終了次第廃止予定。							
収入・事業費等 (単位:百万円)	収入	国費	22年度	23年度	24年度	25年度見込		
			8	3	4	1		
		国費以外						
		運用収入	0	0	0	0		
		前年度繰り越し	3,498	2,715	2,136	1,745		
	(マイナス)返納額	-	-	-	-			
		合計(a)	3,506	2,718	2,140	1,746		
	事業費等	事業費	678	469	348	355		
		管理費	113	113	47	47		
		合計(b)	791	582	395	402		
	基金残高(a-b)	2,715	2,136	1,745	1,344			
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標(目標年度)		単位	22年度	23年度	24年度	25年度見込	目標年度見込
	当事業により、公立学校、ブラジル人学校等へ就学を果たしたブラジル人等の子供の数		人	917	927	635	-	-
	※ 当事業への需要の予測は非常に困難であること、また、当事業に参加したブラジル人等の子供が、公立学校、ブラジル学校への就学を果たせるかどうかについては、当事業の実施方法・内容だけでなく、ブラジル人等の子供を取り巻く環境が影響を及ぼすものであることから、今後の活動実績を見込むことは非常に困難である。	活動実績(当初見込み)			(-)	(-)	(-)	(-)
単位(1団体)当たりの事業費等	20	(百万円/件)	算出根拠	平成24年度事業費等(395百万円)÷平成24年度事業実施団体数(20件)				
保有割合(基金事業に要する費用に対する保有基金額等の割合)	2.17		算出方法	平成24年度末の基金額(1745百万円)÷事業が完了するまで(平成25~26年度までの2年間)に必要となる事業費等(804百万円) ※平成26年度の事業費等見込額については平成25年度見込み額と同額を要するものとみなし算出。				
所見/対応状況	本事業は、自宅待機・不就学等となっているブラジル人等の子供を対象に、日本語指導、教科指導等によりブラジル人等の子供の公立学校等への円滑な転入を目指すものであり、現下の経済情勢において本事業へのニーズは依然として高い。基金への需要の予測は非常に困難であり、今後の経済動向等の状況によっては、そのニーズが急激に拡大する可能性もあり得ることから、基金の保有割合が高くなっているが、当基金において本事業を引き続き現行水準で着実に実施していくことが必要である。 事業費及び管理費は採択団体数等により増減するが、引き続き経費削減に努めることとしたい。							
補記								

資金の流れ
(単位：百万円)

文部科学省

拠出

子ども架け橋基金

2,136百万円

利息

4百万円

【委託金】

348百万円

【管理費】

47百万円

A.社会福祉法人 青丘社 他 19団体

主として自宅待機・不就学等になっている義務教育段階等のブラジル人等の子供を対象に、その受け皿となる場所の設置、日本語指導、教科指導、バイリンガル指導員等(ブラジル人教員等も含む)によるポルトガル語等の母語指導を通じた教科指導補助等を行う。

B.管理費

A.社会福祉法人 青丘社			E.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
賃金	指導者等給与費、給与費付帯経費(社会保険料)等	15			
借損料	家賃、会場借料、事務機器借料、バス借り上げ料等	2			
その他	消耗品費、諸謝金費、旅費等	3			
計		20	計		0
B.管理費			F.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
賃金	職員3名に対する賃金	20			
雑役務費	オフィス清掃、人事サービス料等	2			
諸謝金	事務局業務補助、事務局業務補助	1			
その他	借損料、消耗品費、光熱水費、一般管理費等	24			
計		47	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要及び採択理由	支出額 (百万円)
1	社会福祉法人 青丘社	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
2	NPO法人 日本ペルー共生協会	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
3	NPO法人 多言語教育研究所	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
4	NPO法人 日本インターネットスクール協会(菊川)	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
5	NPO法人 日本インターネットスクール協会(焼津)	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
6	NPO法人 可児市国際交流協会	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
7	NPO法人 ARACE	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
8	NPO法人 青少年自立援助センター(福生)	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	20
9	NPO法人 多文化共生センター東京	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	19
10	NPO法人 外国籍住民自立就労協会	ブラジル人等の子供のための日本語指導等の実施。事業計画書の内容を外部有識者、文部科学省関係者からなる審査委員会において審査し、適切と認められたため、採択された。	19